



First issue

MICHISHIRUBE

愛学生がインタビュー

社長になった先輩方に



道標

Michi

shirube

-Heads of 2667-

学生が創る社長取材雑誌



2661人

※東京商工リサーチ 2020年「全国社長出身大学」調査より



38人

12,000人の愛知学院大学の学生の中から、有志が集まった道標編集メンバーの人数。

8人

2661人の本校卒業の経営者、スポーツ選手の皆様の中から、本誌の取材に協力して下さった方々。

「2661」この数字は何の数字でしょうか？

どこかの人口？なかなか鋭いですね、実はこの数字、愛知県大府市月見町の人口より、3多い数…ではなく愛知学院大学を卒業し、現在経営者として活躍されている方々の総数です！なんと2661という人数は東海地方にある大学の中で堂々の1位！そんな学校を代表する先輩方へ、インタビューに行きました！

(大府市月見町の令和3年8月末現在の人口は2658人です)



1位

本校は全151校の東海地方にある大学の中で、輩出した経営者の総数が第1位となっています。

∞ Exp

この活動を通して獲得した経験値は、「∞」。無限大です。それは最後の編集後記を読めば理解していただけると思います。コロナ禍での制作には困難も多かったですが、その分得たものも、もちろん多かったです。

30,000部

道標の初版発行部数は30,000部です。オープンキャンパスや資料請求などの際に配布されます。より多くの方が手にとってくれたら増刷されるかも？！



ミチシルベ
“道標ってなんだろう”

What is Michishirube

愛知学院大学オリジナル広報誌「道標」を手にとっていただきありがとうございます！

本誌は学生の手によって作られた冊子です。「学生の手で、と言っても大人が7割くらいでしょ？」そう思ったそこのあなた、ちょっと待ったあ！本誌はデザインと文章はもちろん、実際の取材や、アポ取りにいたるまでのすべてを学生が担当し、制作した、正真正銘の学生による広報誌です。取材記事については各先輩方につき、1チームが担当しています。各チームがこだわりにこだわり抜いた仕上がりとなっているため、取材ページそれぞれの微妙な違いも楽しんでいただけたと思います！

学生の、学生による、学生のための「道標」ぜひお楽しみください！



商学部卒業

WILLER株式会社

村瀬 茂高

Murase Shigetaka



PROFILE

愛知県名古屋市出身。大学時代は旅行サークルに所属。サークル活動で、ツアーを計画するなど活発な学生生活を送る。サークル経験を活かし旅行会社に就職したのち、30歳の時に独立してWILLER株式会社を立ち上げる。現在、自動運転やAIルーティングなどの先進的なテクノロジーを活用した移動サービスにも力を入れている。



さまざまな情報から
新しいアイデアが生まれる

弊社は、みなさんに馴染みのあるものと高速バス「WILLER EXPRESS」といった移動サービスや「WILLER TRAVEL」という移動ポータルサイトの運営をおこなっています。旅行業界に限りませんが、大事なものは情報量。たとえば恋人にプレゼントを贈ろうと思ったとき、恋人のことをたくさん知っている、何がよいかを知らなくて、何がよいかを知らなくて、多くの情報を知っているからこそ、その組み合わせの中から新しいアイデアが生まれるんです。中にはこれまでにない面白いものが生まれ、人生が変わることもありますよ。

失敗は、やり続ければ
失敗にならない

困難を解決するまでの
道筋にワクワクする

何かを始めて困難が起きたとき、それをつらいと思うのか、解決するまでの道筋に楽しさを覚えるのか、2種類に分かれると思います。私は、後者の考えで、困難を解決することにワクワク感を覚えるので、あまり挫折を感じたことはないですね。また、成功するまで挑戦し続けるので、あまり失敗したという経験もないかもしれません。ただ、場合によっては不可能なことがあるかもしれないので、そのときはスパッと諦めて、気持ちを切り替えて違う目標を見つけて、これも重要だと思います。

新たな流行をつくる力が
愛学生にはある

大学生活を通して、自分は何をしたのかをしっかりと考えることが大切です。私は旅行サークルに所属しているいろいろなツアーを計画していました。その経験、サークル活動がそのまま仕事になっていきます。また、同じ時間を共有した仲間は一生涯の関係になるので大切にしてください。社会に出たときの糧になりますし、人生の豊かさに大きく貢献すると思います。愛知学院大学には、いろいろなことにチャレンジできる環境がありますし、愛学生には、新たな流行をつくり出す力があると思いますよ。



WILLER株式会社

新たな価値の創造をめざし、独自のマーケティングシステムにより、都市間高速バス「WILLER EXPRESS」やローカル鉄道「京都丹後鉄道」の運行をはじめ、自動運転やAIルーティングなどテクノロジーを活用した新たな移動サービスにも取り組む。シンガポール、ベトナム、台湾にも現地法人を創立し、日本・ASEANにおいて移動サービスを開発・提供している。



経営学部卒業
株式会社SKYCorporation.

山本健太

Yamamoto Kenta



PROFILE

愛知県名古屋市出身。国際会計学が専門の戸田秀雄教授(当時のゼミでコーポレートガバナンスを学ぶ。在学中に「友人との交流の場を作りたい」との思いをきっかけに飲食店をオープンし、学業に励みながら飲食店経営に熱中する。大学卒業後に、株式会社SKYCorporation.を設立。そのほか、インドネシアでの経営経験もあり、現在もCELを信念に大学での学びを活かしながら、飽くなき挑戦を続けている。



ほしいと思ったものは、
自分たちで作る

考えるより前に行動をするような大学生でした。現在は、「FOR YOU」「オムライス(LABO)」など10店舗以上の飲食店をプロデュースしていますが、1店舗目をオープンしたのは大学生のときです。友人ともっと語り合う場所がほしいと思っていて、だったら自分たちで作ろうと思いい、地下鉄本山駅の近くに「STAND BY ME」というお店をつくりました。授業後はお店に直行。不安と戦いながら、経験や知識を増やしてきました。そのときの友人とは今も仕事でつながっていて、ボランティア活動をしています。

学生へのメッセージ

時間があることが人生にとって一番のアドバンテージだと思えます。なので、みなさんは私よりも絶対に有利です。なぜなら、20年以上という時間のアドバンテージをもっているから。技術や思考は経験が積み重なっていくので、時間でも変化させることができます。私が愛知学院大学在学中に起業したように、みなさんも自由な発想で、思いついたら行動・挑戦できる場所を見つけてください。そこから、たくさん学びを得てほしいです。挑戦することを始めれば、自然と自分のやりたいことも見つかると思います！

おもしろきこともなき世をおもしろく

会社経営で、
大事にしていること

CELという言葉があります。これは、造語なのですが、Challenge, Enjoy, Learnの頭文字をとっています。「人生は挑戦(Challenge)と学び(Learn)の繰り返し。そして、その過程の真ん中で楽しさ(Enjoy)を感じられたら人生はもったいものになる！」という意味です。この「た」を信念にもっているからこそ、たくさんのChallenge(事業展開)ができますし、失敗が怖くなくなるんです。たとえ失敗したとしても、その失敗をネガティブに捉えるのではなく、学ぶ機会だと捉えることができれば、失敗は怖くありません。



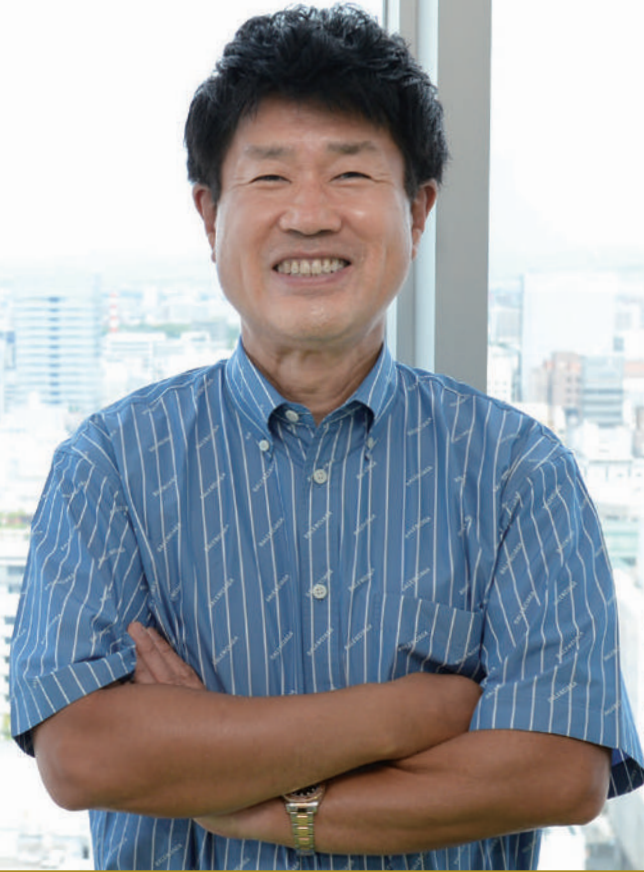
祇園茶寮×タニタカフェ イオンモール名古屋ドーム店

株式会社SKYCorporation.

2004年に現社長の山本健太氏が設立。2001年に前身となる「STAND BY ME」をオープンし、その後は「FOR YOU」をはじめ、複数の業態で出店している。「GOOD FOOD TIME LIFE」をスローガンに、料理はもちろん、空間や接客を通じて非日常を感じ、お店で過ごす時間を素敵なひとときにしていただくことをめざしたお店づくりをおこなう。



坂梨 幸典

文学部卒業
株式会社ITAGE

PROFILE

愛知県出身。大学時代は軽音サークルに所属し、ライブ活動・さまざまなアルバイトに明け暮れ、知見を深める。企画に携わる事業に興味があったため、大学卒業後は広告代理店、IT企業に従事。2005年に独立し、株式会社ITAGEを設立する。

株式会社ITAGE

ITを用いてさまざまな分野で「見える化+INNOVATION」を進める。スマホで作物の生育状況を見ることができる「生育ナビ」を開発し、農業分野への貢献を果たす。現在も、自社ソフトの開発をめざす。

やりたいことをやる

社長は学生のころから起業を視野に入れていましたか？

学生のころから起業しようとは考えていなかったです。就職活動中は企画に携わる企業に就職したいと考えていました。大学卒業後、広告代理店やIT企業に就職し、役員になるまで勤めていましたが、そのなかで少しずつ起業を意識するようになりました。

行動力の源はどこから来ていましたか？

「自分のやりたいことをやりたい！」という思いが一番強かったです。業種にもよりますが、会社に勤めるとなると自分の意思で仕事をすることは難しく、会社・社長の意向に沿って仕事をしなければなりません。自分のやり方のようにできず歯がゆい思いをし、自分の気持ちが犠牲になっているような感覚がありました。ある程度リスクがあっても、これからは自分の気持ちに正直に生きようと思って起業を決意しました。

起業するうえで、なぜIT業界を選択されたのですか？

Windowsの発売により、IT関連の需要が伸びたためIT関連で起業しました。自分のやりたいことが仕事になっていることに、日々やりがいを感じています。創業以来、IT技術だけでなく、私たちはエンドユーザー目線で考え抜いた企画力を重視してきました。さまざまな産業に私たちが開発したサービスを提供し、社会の発展

に貢献できていることにもやりがいを感じます。



何を意識して仕事に取り組んでいますか？

私たちの業界に限らず、さまざまな業界が年々進歩をしています。そのなかで生き残っていくためにも「ブレないで変化すること」を意識しています。自分の意見を言うことはとても難しいことだとわかってはいます。ただ、無理に同調する必要はないと考えています。考えずに仕事をしてほしくないのです。社員には積極的に考えを述べてもらうようにしています。あとは、「真実こそ一番強い」ということ。正しいと思えることを言う、やれる、ありのままの真実を伝えられるよう社員にも教育をしています。

仕事でも私生活でも大切にしていることは？

一番大切にしているのは、人とのつながりです。私は人とのつ

ながりが一番だと考えているので、損得勘定なしで仕事に取り組み、信頼関係を築けるよう努力しました。昔お世話になったアルバイト先の店長とは現在でも連絡を取り合う仲で、一期一会の出会いを大切にしています。

自分という幹を作る

最後に、学生に伝えたいことはありますか？

みなさんには、学生のときにしかできないことに取り組んでほしいです。私は歴史の勉強をするために愛知学院大学に入学しました。大学の史料室には普段では見られない貴重な史料がたくさんあり、もっと深く勉強したかったと思うこともあります。ほかにも、学生生活やアルバイトなどで、さまざまな人と出会うと思います。その出会いの縁を大切にしてほしいです。刺激を与えてくれる人とたくさん出会い、多くのことを吸収し、自分という幹を作っていくてください。



峰澤 彰宏

商学部卒業
株式会社MINEZAWA



PROFILE

愛知県岡崎市出身。大学1年生のころに、数週間アメリカの大学に留学する。そこでさまざまな刺激を受け、大学時代には合計4回も海外に行く。そして海外留学での経験を活かし、1993年から代表取締役社長を務め、現在は海外での事業展開に力を入れている。

株式会社MINEZAWA

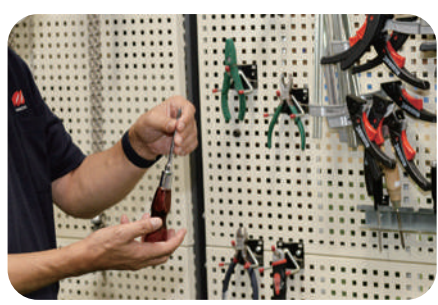
1868年に金物雑貨店を創業し、現在は工具、配管、工場設備・機器、OA機器などを取り扱い、お客様のニーズに合わせて提案・販売をおこなっている。中国をはじめ複数の国に海外拠点を設立し、世界中のあらゆる場所で、お客様のモノづくりに欠かせない存在となるよう、さらなる流通体制の強化に努めている。

海外留学で得た経験

学生時代を振り返って一番印象的だったことは何ですか？

一番は海外留学ですね。1年生のときに大学の留学制度を利用して、夏休みの数週間、アメリカの大学に行きました。当時はSNSもなく、情報が簡単に手に入らなかった時代。行ってみないとわからない世界でした。しかし、留学してさまざまな人と出会い、異国の文化にふれ、見ることも、食べることも、日本と違い、勉強になりました。その後も海外に行き、行けば行くほど日本が好きになり、日本のことをもっと知って、いいことばかりです。知っていいことばかりです。知っていいことばかりです。知っていいことばかりです。

学生時代においていたほうがいいことはありますか？
勉強ですね。私は、特に統計や簿記の講義をもっと真剣に受



けておけばよかったと感じています。大学時代は、知らないことを学ぶいい機会。大学生のうちいろいろなことを学んでください。

新しいことに挑戦

社会人になって人生に影響を与えた出来事はありますか？

42歳で挑戦したホノルルマラソンです。それまで、ほとんど運動もしていませんでしたが、友人に誘われて出場を決意しました。そんな自分が日々トレーニングを積み、ゴールできたことはとても達成感がありました。ホノルルマラソンを経験してから、「目標さえ決めれば達成できる、ゴールさえ決めれば頑張れる」と思えるようになりました。また、以前にも増して目標を達成するためには、何が大事かを考えて行動するようにになりました。

仕事などで目標を達成できないときや挫折したときは、どのように対処していますか？

まず、反省して、PDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善))を見直しています。そして何がいけなかったのかどうすればよかったのかを考えて、次の機会の参考にします。また、いつまでも落ち込んでいても仕方がないので、失敗も前向きに捉えて次の目標を考えて切り替えるようにしています。

貴社では、どんな方が活躍されていますか？

私たちは、移り変わる時代に



合わせて、新しいことに挑戦していきたいと考えています。そのため、若い人の斬新なアイデアや発想をたくさん取り込みたいです。だから、まわりの意見に流されずに、「自分はこうなりたい」と目標や夢をもっている人や自分の軸をもっている人、考えて行動する人と一緒に働きたいです。弊社は、主に工具・工作機械を扱う会社です。ただ相手の要望を受け入れるだけでなく、付加価値をつけた私たちの提案を受け入れてもらうことも重要です。普段からコミュニケーションをとり、自分がどんな人間であるかをPRできている人や、自分で考えて前向きに行動している社員が活躍しています。



自分の軸をもつということが大切ということですね。最後にメッセージをお願いします。

大学というのは、長いようであっという間に過ぎます。学生のうちにいろいろなことを経験し、貴重な4年間を楽しんで過ごしてください！

商学部卒業
株式会社南山園

富田 清治

Tomita Kiyoharu



PROFILE

愛知県西尾市出身。大学時代はフォークソングに熱中する。1991年三代目の代表取締役役に就任。抹茶の新たな可能性を引き出しつつ、700年にもおよぶ抹茶の歴史を守り続けている。



大切なのは強い思い

社長になられてから、「学ぶ」という行動を起こす際に大切にしていることは何ですか？

人間は強く望めば、なりたいたいものになることができます。「こんなことがしたい！」「こんな人になりたい！」と自分のビジョンを描いてみてください。そうすれば、必然と考え方が変わり、行動が変わり、結果が変わってきます。「みなさんは、誰か尊敬できる人はいますか？」もし、尊敬する人や人物像があるのなら、その人の真似をしてみるのもいいですね。

一つの考え方で人生が幸せに…

素直な人が求められる

高校生や大学生に対して求めていることは何ですか？

素直でいることが大切だと思います。社会に出てからも、素直に一生懸命やっている人は素敵です。与えられた仕事を一生懸命やり、わからないことは聞く。そして、自分の考えを相手に伝えてみる。下手でも大丈夫です。素直に一生懸命行動していれば、必ずまわりが助けてくれたり、応援してくれますよ。

確かにアルバイトにおいても、一生懸命考えて行動してくれる後輩は助けてあげたいなあと思っています！

親切で思いやりの愛

学生に対してのメッセージをお願いします！

人への愛を大切にしてください。自分勝手な人は、自分自身は心地がよくても、まわりの人がだんだん離れていきます。そうならないためにも、「私の今日の一日は、どうだったかな」と毎日反省をするというでしょう。毎日楽しんで反省しながら、怖がらずに前に進んでいってください。

素敵なお言葉をありがとうございます！私たちも、自分自身がよく成長していけるように、毎日反省をしながら楽しく頑張りたいと思います！



南山園の抹茶生産工場

株式会社南山園

茶園から抹茶製品までの一貫生産体制をとる抹茶生産メーカー。風力発電施設の設置による二酸化炭素排出の抑制、食品安全マネジメントシステム認証(FSSC22000)を取得した衛生的な生産設備により、安心・安全・環境に優しいお茶を提供。居酒屋やレストランにも自社製品を流通させることを目標に掲げている。



法学部卒業
日進医療器株式会社

松永 圭司

Matsunaga Keiji



PROFILE

愛知県出身。愛知高校を経て愛知学院大学に入学。大学時代はゴルフ部に所属。早朝トレーニングから合宿まで精力的に打ち込んだ。証券会社に勤務後、先代の急死によって急遽社長を任されることになる。2000年の介護保険制度導入の特需の反動で厳しい時代を米国、中国、ベトナムへの進出で乗り切る。座右の銘は「百術は一誠にしかず」。



厳しさの中から学ぶ

大学時代の経験で印象に残っているエピソードはありますか？



ゴルフ部に所属していたのですが、大学に入るまでほとんどゴルフをやっていないで、初めて覚えることばかりでした。当時は、まだ先輩後輩の関係が厳しい時代。上下関係を叩き込まれましたし、つらいこともありましたが、あつときに辞めずに頑張り抜いた経験は、社会人になってからも活かされていることが多いですね。



部活での経験が精神的な支柱になっているんですね。



松永氏とイチオシ商品「座王X(エックス)」

人生を支えるものづくり



あのときに培った体力が趣味のマラソンでも活かしているし、今でも当時の仲間とゴルフをしています。大学時代を振り返ると、一番いい時代だったと思います。

車椅子を使う人たち



車椅子を販売してよろこばれたエピソードはありますか？



事故にあつて仕事ができなくなつてしまった美容師の方がいたのですが、立ち上がるのできる車椅子のおかげで職場復帰できたという話を聞きました。この仕事の魅力は、車椅子を使うことで諦めていたことができるようになる可能性をもっていること。怪我で通常のスキーを諦めた人が、チェア

学生に向けて



最後に、学生に向けてメッセージをお願いします。



コロナに楽しい大学生活を1年以上も奪われて大変だと思いが、人生いいことだけでもないし、悪いことだけでもない。とにかく前向きに努力していれば必ず道は開けます。学生時代の努力はいつか報われるときがくるので頑張ってください。

日進医療器株式会社

自動車用スプリングおよびプレス製品のメーカーとして、1964(昭和39)年に創業。1965年より車椅子の開発と製造を開始し、多くの人々に受け入れられた。現在では車椅子業界において、トップシェアを誇る企業である。多種多様な車椅子や歩行器、医療施設向けのストレッチャー等を製造している。



関わりあった

すべての人に感謝。

東海衣料株式会社

近藤大輔

Kondou Daisuke

商学部卒業

三重県四日市市出身。1992年3月愛知学院大学商学部経営学科を卒業。大学時代は情報処理研究会に所属しており人間関係や組織のまとめ方などを学ぶ。アルバイト先であった東海衣料株式会社に入社後、販売営業、品質管理などを担当。その後、代表取締役役に就任。現在は、三重服育研究会を立ち上げ、服育の普及に取り組んでいる。

人間力を育んだ 大学時代

大学時代は、サークルやゼミの活動が印象に残っています。情報処理研究会に所属し、検定の勉強をしたり、夏合宿などに参加したりしました。120人近くいたので、いろいろな人と関わる機会があり、人間関係を多く学んだと思います。サークルの仲間とは今でもゴルフやボーリングなどをして会っています。ゼミでは、担当教授の紹介でいろいろな企業の講演会に参加しました。それがきっかけで自分がやりたいもの、やりたいことを考えるきっかけをもらえたと思います。

教育環境をよく するお手伝い

アルバイト時代、入学式に制服を着て晴れやかな笑顔で登校している生徒たちの姿にやりがいを感じていました。夢や希望をもって羽ばたいてほしいと思うので、就職や入学の時期など、制服を通してそのお手伝いをできることがうれしいです。

その後、社長になり、経営を学ぶなかでその思いは若干変化しました。そもそも東海衣料は何屋なのかと考えるようになり、弊社は学生服屋というよりは、子どもたちを教育する教育現場に役立つ服屋として社会と関わっています。私たちは、生徒が安心して授業を受けられる制服、先生が授業しやすい制服、安心安全に登下校

ができて保護者が見送ることのできる制服を作りあげてきました。こういった視点で見ると、ただ制服を販売する会社ではなく、教育環境をよくするお手伝いをする会社であるべきだと感じました。

教育環境がいい地域になれば、住民も増え、街の活性化にもつながります。制服づくりを通して、街づくりにも貢献できる会社でありたいと決意しました。さらに制服メーカーとして、生徒たちの青春の1ページを飾るお手伝いをしたいという気持ちも忘れずに仕事をしています。

自由を履き違えないことが大切

4年ほど前から続けている「服育」の普及が今後の目標です。服育は、服装を通して社会やTPO(※)などを学ぶことです。自由の幅が広がり、見た目で判断しない世の中と言われていますが、社会に出るとやはり見た目で判断される場面もあります。社会に出ると、まわりからどう見られているか、どうあるべきかを自分で考えなければなりません。

人から感謝されることを

大学はサークルやゼミなどで、幅広い世代の人たちと関わる機会がたくさん生まれます。大学は学びたいことを学ぶだけでなく、そういう場所の人との関わり方や集団のまとめ方なども学ぶことができます。積極的に人と関わり、勉強以外の「社会勉強もしてください。また、人間は人から感謝されることに生きがいを感じる生き物です。それを意識して働き出すと、人間としてよりよく成長できると思いますよ。

東海衣料株式会社

昭和36年8月に創業。学校制服、体育衣料品、企業制服、ユニフォームなどの企画・製造・卸をおこなう。県内外の小中高約68校の制服を仕立てる地域密着型の企業。学生服を通じて、心が豊かになる教育環境の創造と、制服販売による地元四日市の活性化に貢献している。



※TPO: Time(時間)、Place(場所)、Occasion(場合)の頭文字をとった略語。時と場所、場合に応じた服装・態度・方法などの使い分けを意味する

努力は
ボールをつなぐ。

久光スプリングス

井上美咲

Inoue Misaki

心身科学部卒業

三重県名張市出身。津商業高校、愛知学院大学と学生時代はバレーボール中心の日々を送る。愛知学院大学在学中には、東海大学春季・秋季大学リーグ戦セッター賞を受賞。大学卒業後、埼玉上尾メディックスに入団。2019-20シーズンはチームキャプテンに就任する。2020年7月に久光スプリングスに移籍し、セッターとして活躍中。

©SAGA HISAMITSU SPRINGS Co., Ltd.

バレーボールに 熱中した青春

バレーボールを始めて以来、バレー漬けの生活をしていました。大学時代もバレーの思い出が多いです。大学では、バレー以外にも、いろいろなスポーツをやっている仲間にも出会えました。学生時代に仲間を作ることはとても大事だと思いますよ。バレーを仕事として意識したのは、3年の終わりごろです。就職活動をしように思っていたら、監督から「バレーを続けてみないか」といわれ、「バレーを仕事に」という気持ち芽生えました。現在は、久光スプリングスでプレーしています。

まわりの仲間の 存在が支えに

バレーと向き合うことがつらいと思う時期もありました。でも、まわりの仲間が本当にいい人ばかりで、とても支えになりました。時にはぶつかり合うこともありました。お互いを信頼しあっているからこそ、本当に頼れる仲間がいたからこそ、その時期を乗り越えられたのだなと思います。あとは、そんな仲間のことを考えると、自分もちゃんとしなきゃ、という気持ちにもなりました。その気持ちで、今でもずっとバレーボールを続けられている原動力ですね。

スポーツ選手と しての意識

心がけていることは、人

から見られているという意識をもつこと。たとえば街中を歩いている人がいるかもしれないという意識は常にあります。スポーツ選手として不適切な行動はできないという責任感もあります。その意識が、スポーツを通して自分自身を成長させていると思います。大学時代は教職課程をとっていたので、模擬授業でみんなの前で話をしたり、言葉づかいや物事の伝え方などを学んだりしました。そのときの学びが、今もそうした場面で活かされていると感じます。

日々の積み重ね が大切

試合前のルーティンをよく聞かれるのですが、ベストパフォーマンスを発揮するために特別なことはしてなくて、いつも通りに過ごしています。練習通りにやろうという気持ちで臨んでいます。普段以上で臨むことはできないと思うので、日々の地道な活動が大切ですね。これはスポーツに限らず、仕事でも言え



©SAGA HISAMITSU SPRINGS Co., Ltd.

久光スプリングス

SAGA久光スプリングス株式会社が運営する女子バレーボールチーム。久光製薬の本社がある佐賀県鳥栖市を本拠地とし、練習拠点の兵庫県神戸市を共にホームとするダブルホームタウン制を敷いている。V.LEAGUE DIVISION1(V1リーグ)に所属。



将来を見据えた 挑戦を

大学では、教員や職員の方などいろいろな経験をしている方と交流できる機会があると思うので、自分から積極的にコミュニケーションをとってほしいですね。あとは自分の将来を見据えて資格を取得したり、いろいろなことに挑戦して経験を積み、多くのことを吸収してください！

大学に入ることがゴールではない。
進学した大学で、何を体験するのが大切。



日進キャンパス編集長

岡庭幸紀 Okaniwa Koki

総合政策学部総合政策学科 2年
長野県飯田高校 出身

飯田市学生アクセラレーター、中日新聞大学生スタッフ、せんばいボイスなど、さまざまな活動に取り組む。現在は、映像制作、Webデザイン、Webアナリティクスを学びながら、飯田下伊那地域で学生と企業が交流できる機会を増やす場づくりに取り組んでいる。

- 編集長対談

高校生や在学生たちの道標に。

岡庭:まず最初に、このプロジェクトの案内を知ったときの率直な感想が聞きたいですね。

河野:おもしろい企画きたー!って思いました(笑)。大学からの案内って、授業や資格講座に関することが多いのですが、このプロジェクトの案内を知ったときは、ビビッと感じたことを覚えています!

岡庭:そうなんですね(笑)。僕も、やっとなりたいって思えるものに出会えたって思いました!多くの社会人とふれあう機会、ましてや大学の先輩でもある社長の方と直接お話ができる機会なんて、普通の学生生活にはないので、すぐに参加しようと決めました。でも、日進キャンパスと名城公園キャンパスの両キャンパスの編集長が1年生(当時)になるとは思いませんでしたね。

河野:僕はこのプロジェクトへの参加を決めた時点で編集長をやろうと考えていましたよ。過去にも組織のリーダーをやるが多かったんで、1年だからという引け目はまったくなく、僕にとっては編集長へ立候補することは当たり前という感覚でした。編集長として、このプロジェクトの成功という目標に挑戦したいと思い立候補しました。でも1年生が編集長をやるってことで、自信がなさそうとか、頼りなさそうっていう雰囲気は絶対に出さないように気をつけています(笑)。

岡庭:へえ~!なんか凄いですね。僕は河野くんのような大きなことを考えていたわけではなくて、編集長になったら多くの人と関わることができるかなっていう単純な思いで立候補しちゃいました(笑)。このプロジェクトの参加を決めた理由のひとつに「たくさんの友達をつくる」という目標があったので。実際、同世代の学生はもちろん、社会人の方とふれあう機会も増えました。そういった出会いから「道標」以外のプロジェクトにも誘っていただくなど、編集長として参加できてよかったって感じています。

河野:多くの出会い以外にも、今回のプロジェクトに参加してよかったって感じる魅力はありますか?

岡庭:今回は創刊号ということもあって、「ゼロからイチを作る」ということに携われたことがよかったです。また、自分たちがやってきたことが、実際に雑誌としてカタチになることも魅力的ですね。

あとは、「道標」で培った経験は、次に何かを始めるときに絶対に生きてくると思います。今後、どのような場面でこの経験が生きるのか非常に楽しみです。

河野:ですよね!僕も、社長に後輩として取材ができることはもちろんですが、その過程でも多くの社会勉強ができたと思っています。実際に、紙面のデザインや原稿制作なども、ほとんど学生が主導して作るじゃないですか?特に、企業に取材依頼をして、了承をいただいたときのうれしさは絶対に忘れないと思います。電話を切ったあと、思わず大喜びしてガッツポーズしましたもん(笑)!まだ創刊したばかりですが、岡庭くんは「道標」が10年後どんなものになってほしいとかありますか?

岡庭:まだ2,600人以上もいる愛知学院大学卒の社長のうち、8人しか取り上げていません。もっといろんな社長がいて、たくさんの生き方があると思うので、それをどんどん紹介しつつ行ってほしいですね。こういう面白い人生を歩む先輩たちを紹介することで、これから愛知学院大学に入学する学生が、4年間という大学生活を有意義なものにできる、まさに「道標」となるようなメディアになってほしいです。

河野:僕たちが作った創刊号はあくまで「道標」のベースですよ。これから少しでも、なんでもいいので、毎年ひとつはバージョンアップしてほしいと思います。10年後であれば、この創刊号をベースに10個はそれぞれの代の編集部がプラスした新しい要素が盛り込まれているとうれしいですよ。

岡庭:たしかに!10年後の「道標」がとっても楽しみです!最後に、読者のみなさんへのメッセージで締めくくりましょうか?

河野:このプロジェクトもそうですけど、世の中には面白いことをやってる人がたくさんいることを実感しました。そういった人たちとたくさん出会える環境を、自分から踏み出して作ってほしいです。人との出会いが自分の世界を大きく広げるきっかけになると思います。そんな環境が愛知学院大学にあってよかったです!

岡庭:いいこと言いますね~。僕は、大学に入ることがゴールではなく、入学してからがスタートだと思っています。進学した大学で、何を体験するのが大切。高校生のみならず、何でもいいので目的をもって過ごしてもらえたら有意義な学生生活になると思いますよ。

河野:せっかくなんで、愛知学院大学に入学して、僕たちと一緒に「道標」を作りましょう(笑)!

岡庭:なんか広報っぽい感じでうまくまとまりましたね(笑)!

人との出会いが自分の世界を大きく広げるきっかけに。



名城公園キャンパス編集長

河野永貴 Kouno Eiki

経営学部経営学科 2年
埼玉県立春日部高校 出身

中学、高校と委員会や部活動で代表職を務めた経験から、経営学や組織論に興味をもち、進学。愛知学院大学に在籍しつつ、NPO団体と協力し、大学生と企業をつなぐ新たな事業を起こすために活動している。大学の授業と活動を両立するために日々奮闘中。

編集

editorial note

後記

作成のすべてを学生が担当した広報誌「道標」創刊号。いかがだったでしょうか？愛知学院大学出身の面白い社長のみなさんのこと、こんな広報誌を作ってしまう愛知学院大学の学生のことをわかっていただけましたか？最後に1万人を超える学生の中から有志で参加した熱意あふれる編集チームを、今回のプロジェクト・取材に参加した感想とともにご紹介します！



飲食業界 TEAM

見聞を広める素晴らしい体験に

取材や原稿の執筆はもちろんのこと、取材先の決定や依頼、さらには誌面デザイナーの立案まで。雑誌づくりのすべての工程に私たち自らが携わり、1から雑誌を制作・発行するというのは、これまでにない貴重な経験でした。また、コロナ禍において人との関わりが希薄になりがちな今日に、異なる学科・学年の方との交流ができたことも、いい機会であったと感じています。そして何より、OBの方のお話を伺うことは自身の見聞を広める素晴らしい体験となりました。

岡庭幸紀 / 澤田和也 / 大森咲歩 / 福元のと香 / 高橋真穂 / 木村希



商社 TEAM

活動を通し、自分の成長を実感

私は副編集長・デザイナー部門として道標に取り組みました。プロのライター・デザイナーと仕事ができただけではありません、同じグループの先輩や同級生そして編集長である後輩の河野君との活動を通じて、コロナ禍でありながらも、今までになかった貴重な経験をさせてもらったとともに自分の成長を実感することができました。道標に携わったすべての関係者、取材に協力してくださった「MINIZAWA」様に心から深く感謝申し上げます。

國廣健太 / 清水隆 / 井野口千晃 / 川崎舞子 / 河野永貴



製造業界 TEAM

私たちの一歩が、アイガワの伝統に

今回の企画で、出版物の制作の一端を担うという貴重な経験を積むことができてきました。本誌制作のうえで、対面での会議がなかなかおこなえず、オンライン会議ならではのコミュニケーションの取り方の試行錯誤といった困難もありましたが、仲間とひとつのものを作りあげることの楽しさを学びました。初めての企画でわからないこともありましたが、チーム一丸となって取り組むことができました。私たちの一歩が、アイガワの伝統となることを期待しています。

池田絢 / 山村彬 / 大沼優華 / 佐藤江理香 / 澤井翔太 / 中野愛理沙 / 野田大和



サービス業界 TEAM

失敗を恐れぬ精神力に圧倒

今回、私たちはWILLER株式会社の本社がある大阪へ取材に向きました。取材時は、大学時代の話を交えつつ、フランクに話していただき、2時間があっという間の楽しいひと時でした。村瀬様の並外れた人徳に魅力を感じ、失敗を恐れぬ精神力に圧倒されました。村瀬様の持ち得る挑戦思考に感化されながら、大阪・愛知間を約7時間かけて帰宅したのはいい思い出です。取材後も、仲間と夜通し率直な意見を出し合い、記事を作成できたのは貴重な経験になりました。

田口優佑 / 大谷匠人 / 高橋健介 / 出口果歩 / 長坂千里 / 福井秀斗 / 遊佐あすか



IT業界 TEAM

様々な困難のなかで得たもの

今回、本誌作成に携わるなかでこのように学生中心の活動に参加する期待や初めての取材という体験の不安で気持ちが様々でした。加えて対面で会うことも難しい状況で苦悩することも多くありました。そんななか、完成までたどり着くことができたことに大きなよろこびを感じました。また、この様々な困難の分、得たものもたくさんありました。この経験によって得たものをこの先の就職活動などに活かして形にしたいと思いました。

古田駿 / 木寺広稀 / 大矢裕花 / 小林世弥



食品業界 TEAM

貴重な経験と感謝の気持ち

今回のプロジェクトで、普通の大学生活では得られない様々な経験をさせていただきました。特に、南山園の富田社長が大切にしていることを学生のうちに何うことができ、道標に参加してよかったと心の底から思いました。学生主体での活動だったため、初めてのことが多く難しさも感じましたが、完成までこぎつけることができうれしく思います。プロジェクト関係者の皆様、取材に協力してくださった「南山園」様に心から深く感謝申し上げます。

澤木健太郎 / 神野里奈 / 熊本彩希 / 新名悠理



スポーツ TEAM

限られた時間の中で完成させる

私が今回の企画を通して一番苦労したことは、スケジューリング調整や仲間とのコミュニケーションです。企画を進めるにあたって、同じチームメンバーだけでもなかなか全員が集まるのが難しく、思い通りに進まないことが多々ありました。限られた時間の中でひとつのものを完成させることは大変でしたが、みんなで作りあげた達成感を味わうことができ、普段お話ができない先輩方の貴重なお話を聞くことができて、非常にいい経験ができました。

鈴木瀬里 / 中川響 / 清家亜友 / 伊藤孝嶺 / 山田拓海



つながる力。動かす力。



AICHI GAKUIN
UNIVERSITY

愛知学院大学

- ◇心理学部:心理学科※◇文学部:歴史学科・日本文学学科・英語英米文化学科・グローバル英語学科・宗教文化学科◇心身科学部:健康科学科・健康栄養学科◇商学部:商学科
- ◇経営学部:経営学科◇経済学部:経済学科◇法学部:法律学科・現代社会法学科◇総合政策学部:総合政策学科◇薬学部:医療薬学科(6年制)◇歯学部:歯学科
- ◇短期大学部:歯科衛生学科(3年制)◇歯科技工専門学校※2022年4月開設

www.agu.ac.jp 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12 入試センター TEL:0561-73-1111(代)